

05年度鹿教組勤務実態調査のまとめ(抜粋) ~ 多忙化解消・ゆとりある学校を目指して ~

1. 調査の目的

03年04年と在校時間調査を実施し、平均10時間12分という長時間にわたる実態が明らかになった。この結果をもとに県教委交渉を実施し、「勤務時間の適正化について「校長は・・・」という主語で始まる4.12通知を出させた。しかし、現場ではほとんど改善されなかった。そこで、鹿教組は、学校においてどこを改善すれば多忙化解消につながるかを把握するために「勤務実態調査」を実施した。この結果をもとに各級の交渉に生かし、具体的改善を迫るとともに、今後の運動に役立てていきたいと考えている。

2. 調査の時期

2005年10月～12月

3. 調査方法

(1)調査対象

県内の小・中学校及び障害児学校の職員

(2)調査方法

支部を通じて調査用紙を配布・回収。

(3)調査の主な項目

- 校務分掌による多忙化の実態
- 勤務開始前の勤務状況
- 年休の取得状況
- 休憩休息の取得状況
- 多忙化解消の手立て
- 教材研究等の時間
- 教育週間について

4. 集約人数

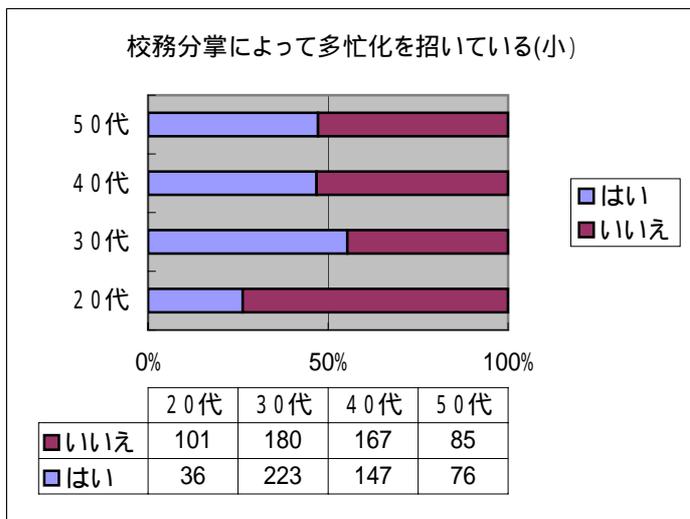
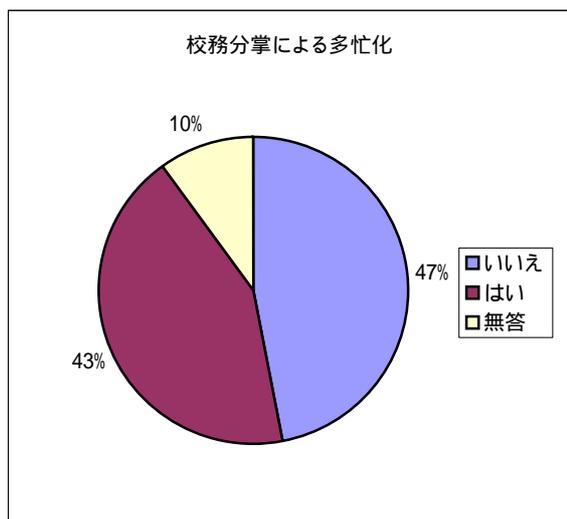
2012名(組合員902名、未組合員978名、区別のないもの132名)

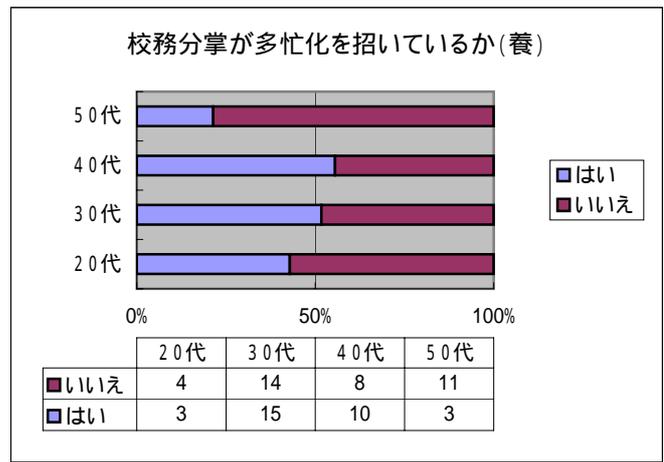
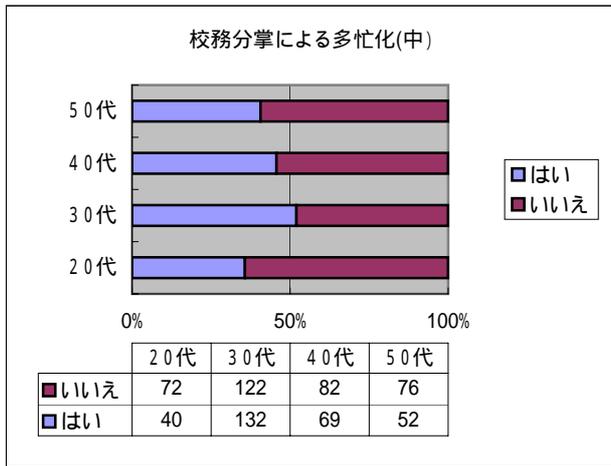
「勤務実態調査」集約結果と分析

1. 調査結果と分析

(1)校務分掌による多忙化の実態

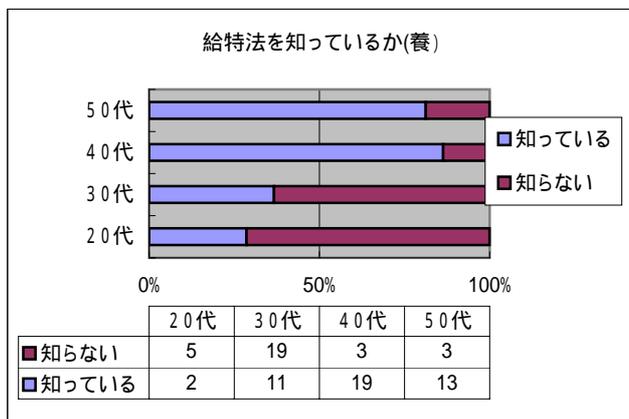
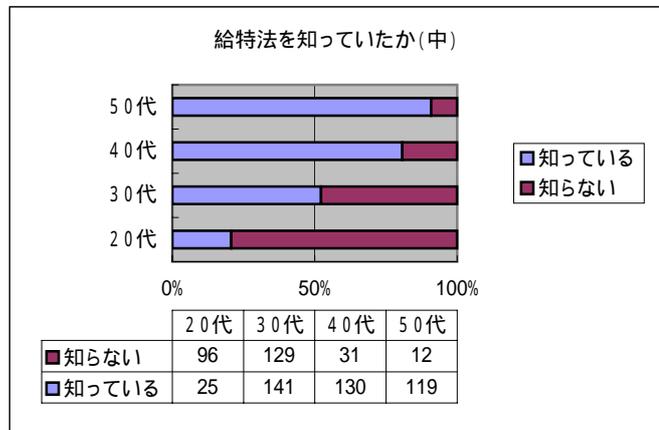
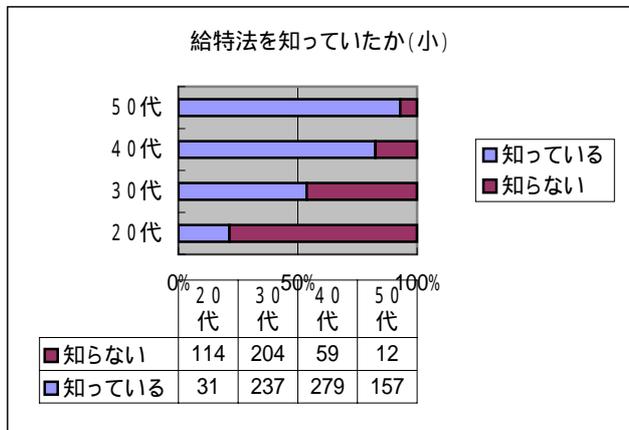
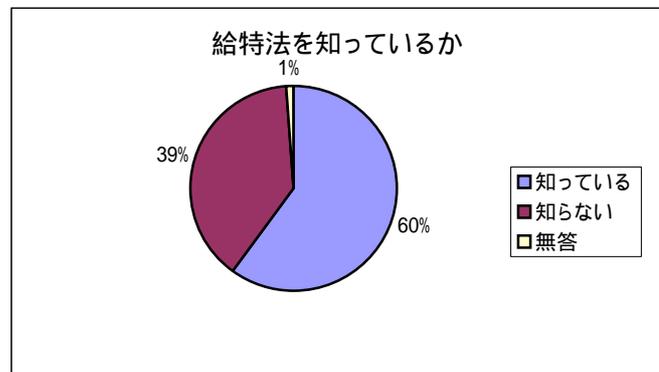
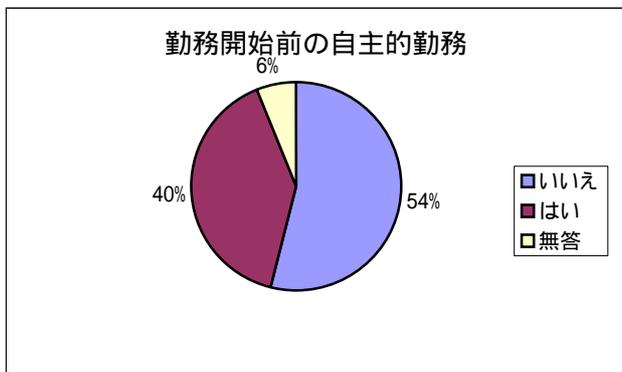
校務分掌の数について、少ない人は0、多い人は31という人もいるが、平均は約3.9になっており、特に30代の職員に多くの校務分掌が任されている。校務分掌による多忙感についても、30代の職員の5割以上が多忙感を持っている実態が明らかになった。





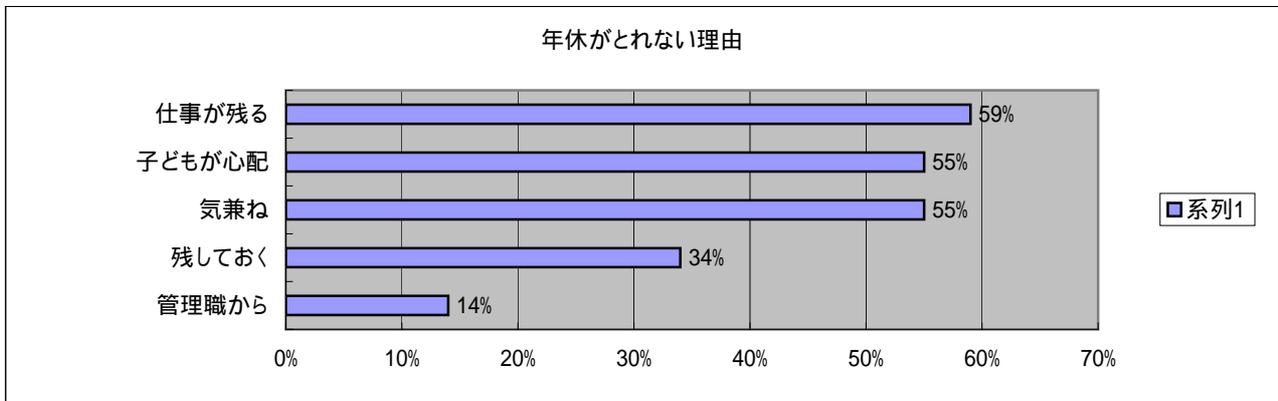
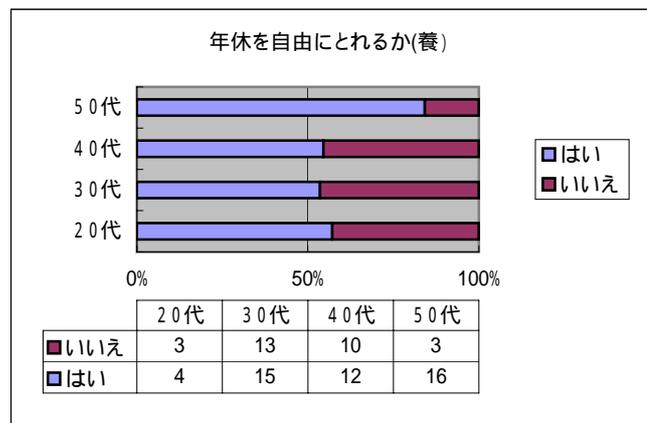
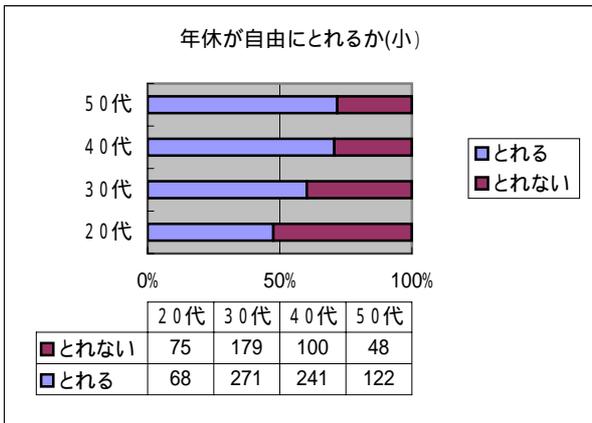
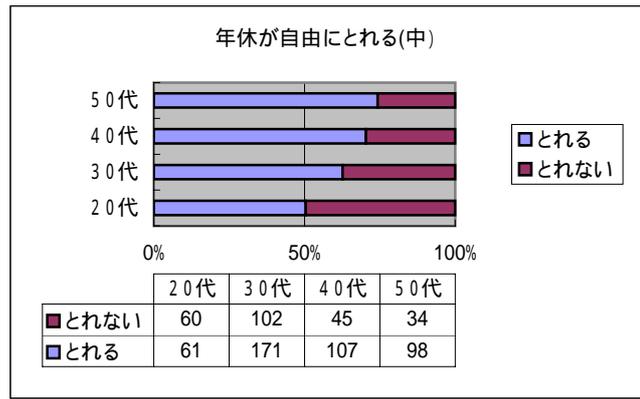
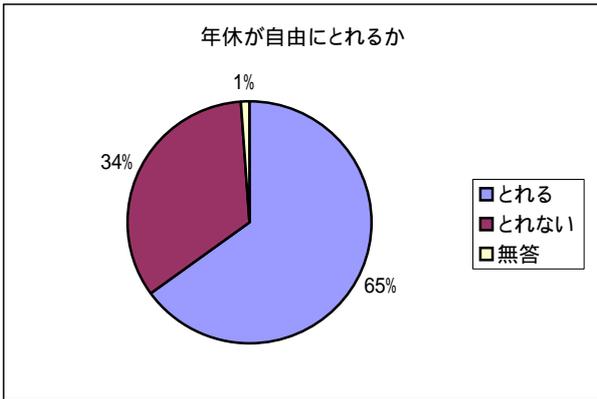
(2) 勤務開始前の勤務状況

調査対象の4割が勤務開始前に自主的勤務をさせられている。あいさつ運動・早朝ランニング・ボランティア活動の時間が勤務開始前に設けられている。勤務に関する法律(給特法)を知っている割合は20代では極端に少ない。研修の中で勤務に関する項目を入れる必要がある。



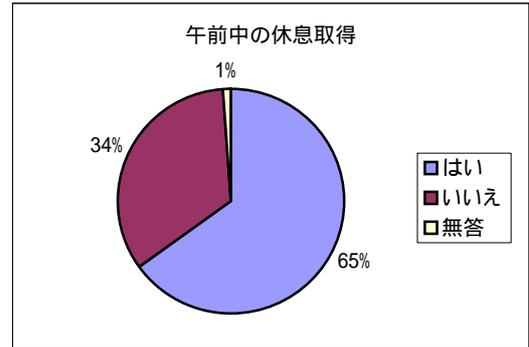
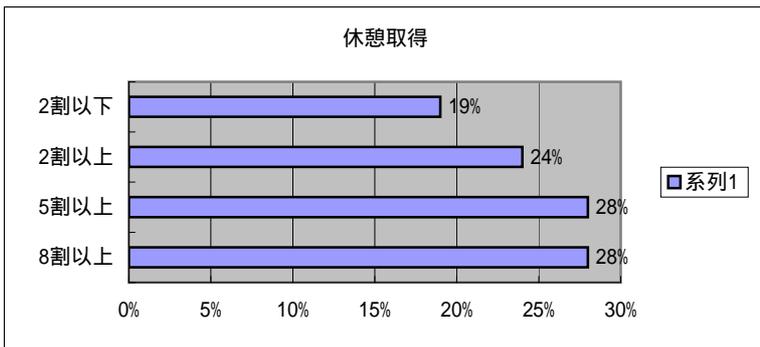
(3) 年休の取得状況

年休を自由にとれる状況は年代による差が大きい。若い人ほどとりづらい状況がある。取れない理由として仕事が残る同僚への気兼ねを半数以上の人あげている。特定事業主行動計画の中に年休を取得しやすい雰囲気の醸成と年間15日以上の数値目標もあげている。休みたいときに休める雰囲気を醸成する必要がある。

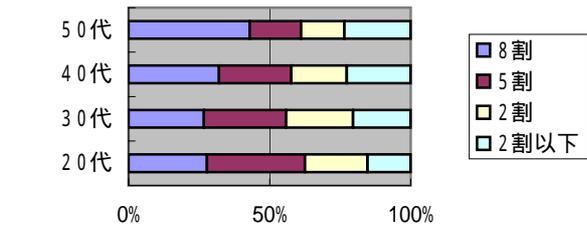


(4) 休憩・休息の取得状況

休憩(45分)については8割以上とることができる人は28%にすぎず、ほとんどの人が何らかの仕事をしている。その中で多いのは文書作成・子どもの日記、宿題調べなどである。また、午前中の休息については、小学校では多くの人がとれているが、中学校養護学校では半数以下となっている。午後の休息はどの学校種でも半数しかとれていない状

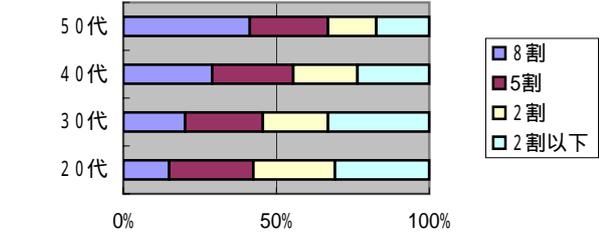


休憩をとれているか(小)



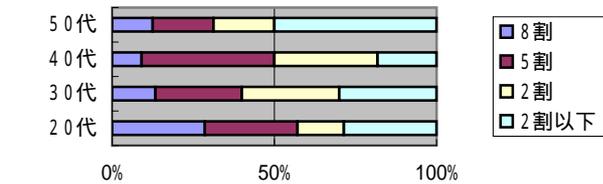
	20代	30代	40代	50代
2割以下	22	91	77	40
2割	32	106	67	26
5割	50	130	87	31
8割	40	119	109	73

休憩はとれているか(中)



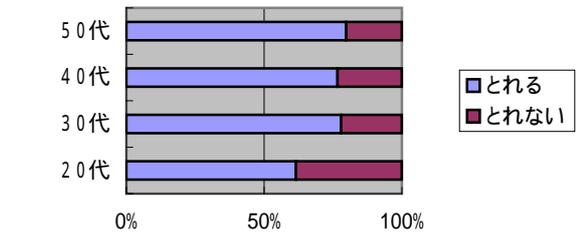
	20代	30代	40代	50代
2割以下	37	90	38	23
2割	32	58	34	21
5割	33	69	43	34
8割	18	55	47	55

休憩の取得状況(養)



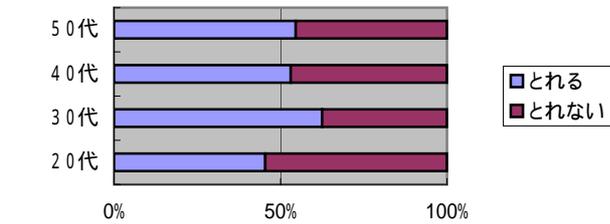
	20代	30代	40代	50代
2割以下	2	9	4	8
2割	1	9	7	3
5割	2	8	9	3
8割	2	4	2	2

午前中休息がとれるか(小)



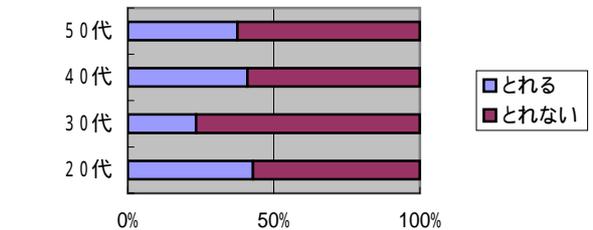
	20代	30代	40代	50代
とれない	60	97	80	34
とれる	96	342	262	134

午前中の休息はとれるか(中)



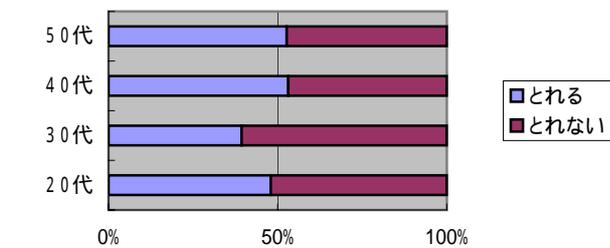
	20代	30代	40代	50代
とれない	66	63	77	60
とれる	55	105	87	72

午前中の休息はとれているか(養)



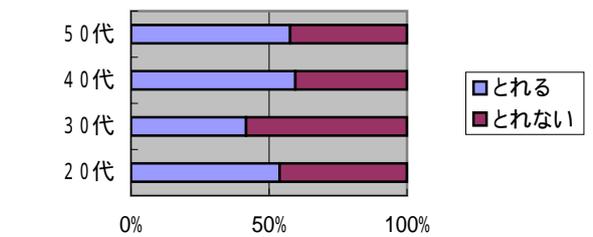
	20代	30代	40代	50代
とれない	4	23	13	10
とれる	3	7	9	6

午後の休息はとれるか(中)

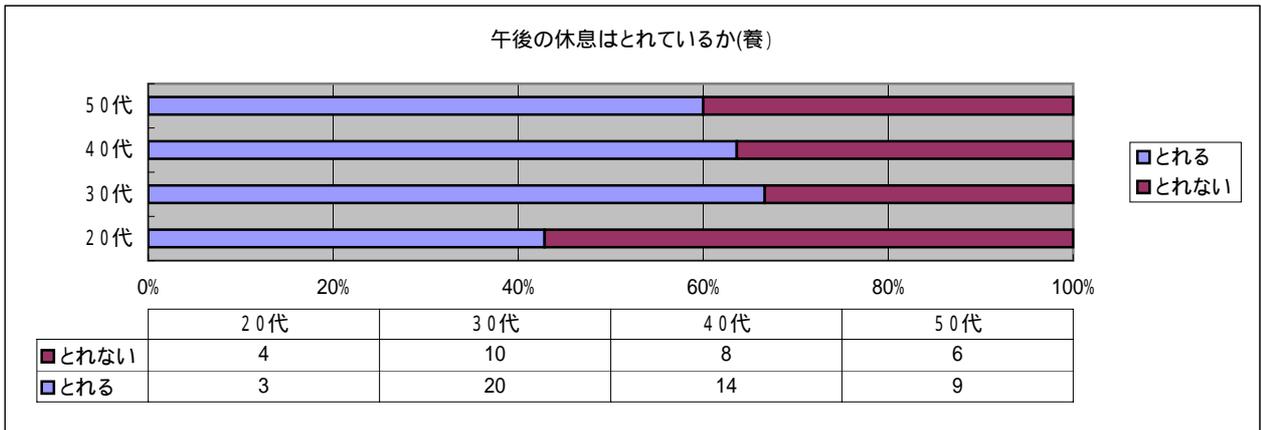


	20代	30代	40代	50代
とれない	63	162	75	62
とれる	58	105	85	69

午後休息がとれるか(小)

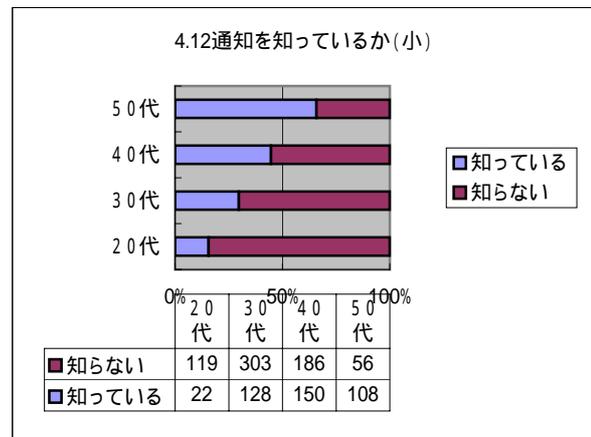
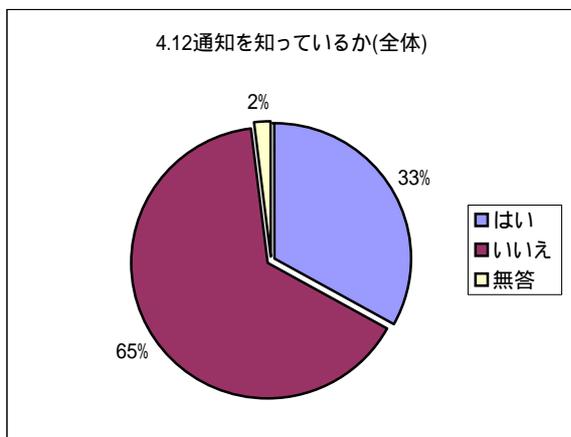
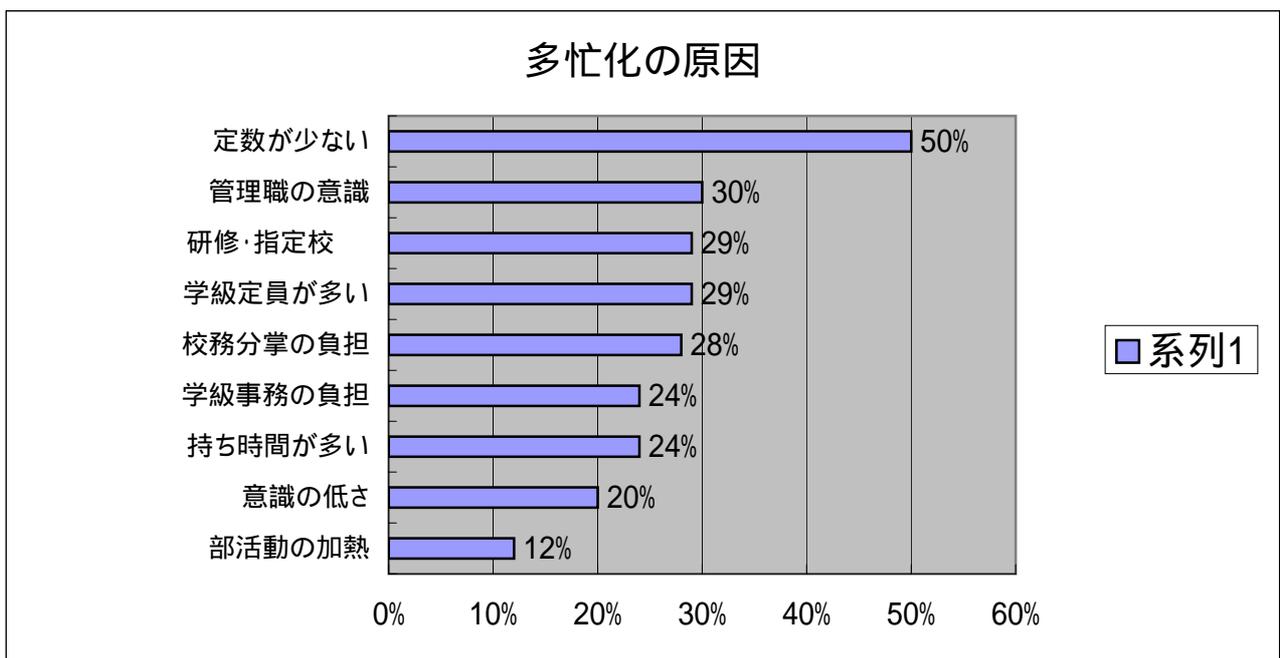


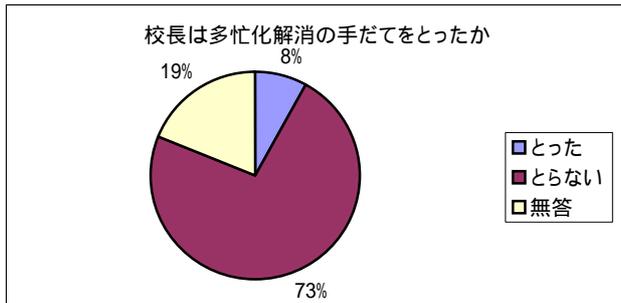
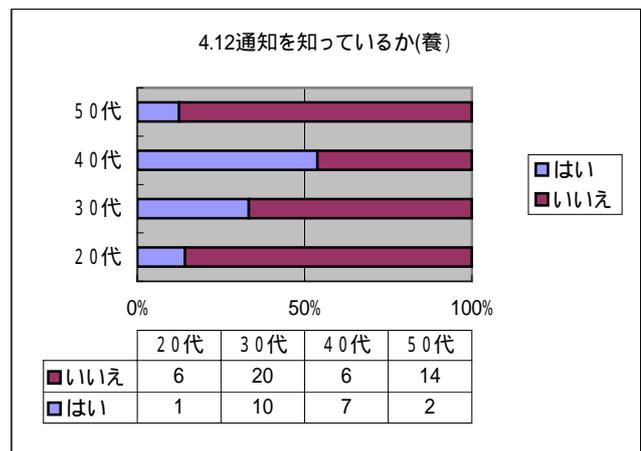
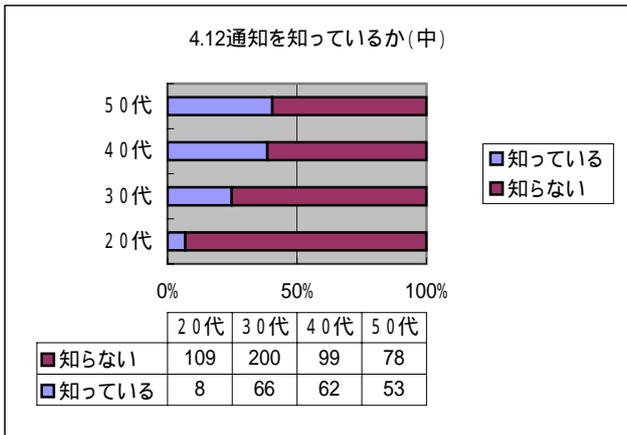
	20代	30代	40代	50代
とれない	67	313	138	69
とれる	78	224	203	94



(5) 多忙化解消の手立て

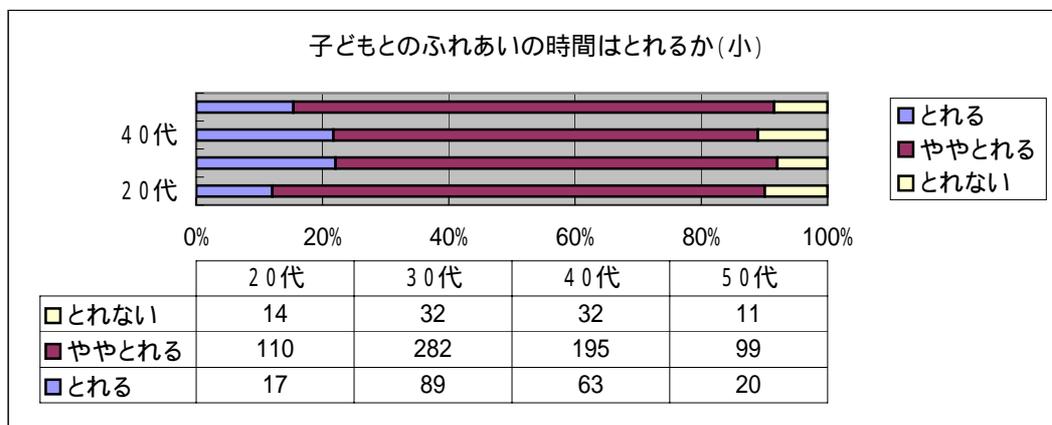
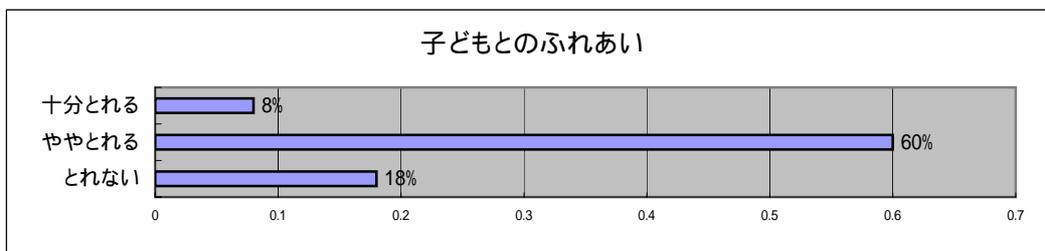
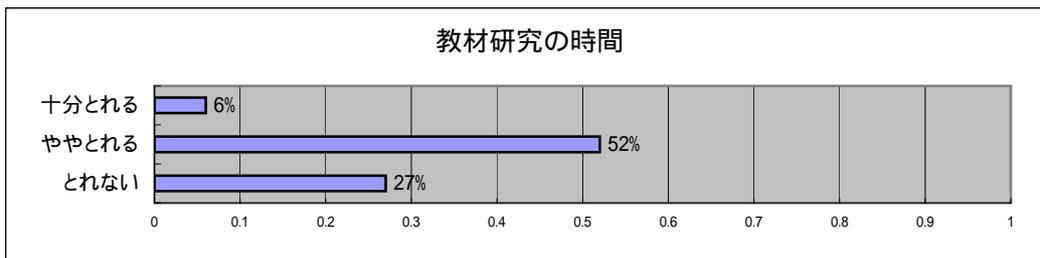
多忙化解消の手立てとして望まれているのはやはり職員定数の増である。管理職の意識改革、研究指定校、学級定員、校務分掌をあげている人が3割近くに達している。また、中学校では部活動の過熱の状況があげられている。昨年の4.12通知を知っている人は3割ぐらいであり、それをもとに校長が多忙化解消のための手立てをとった学校は1割にも

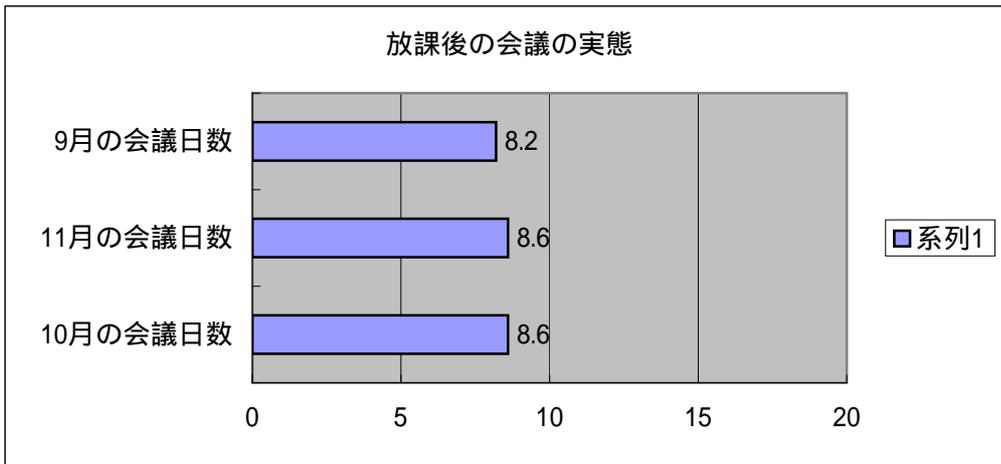
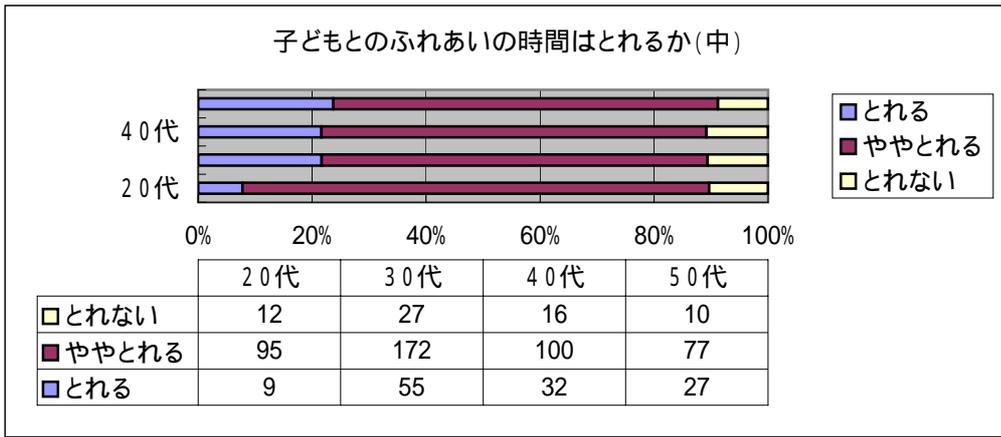




(6)教材研究等の時間

勤務時間内に教材研究の時間は充分とれる人は1割にも満たない。これで、学力をつけるというほうが無理である。また、子どもとのふれあいの時間もほとんどがとれていない状況である。9月から11月にかけて会議のなかった日は半分であり、会議の多さが目に付く。放課後に教材研究をしたり、子どもとふれあう時間を確保するためにも、会議の





(7) 教育週間

教育週間における新たな行事導入が2割近く見られる。これ以上の多忙化を招かないためにも、教育週間で人集めのための新たな行事を組まないよう注視していく必要がある。

